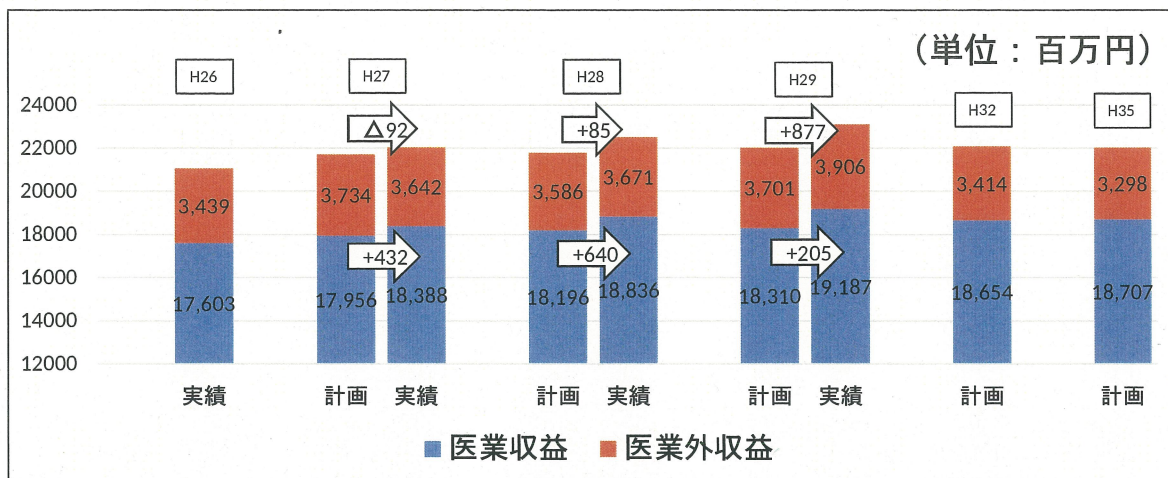


(4) 総収益

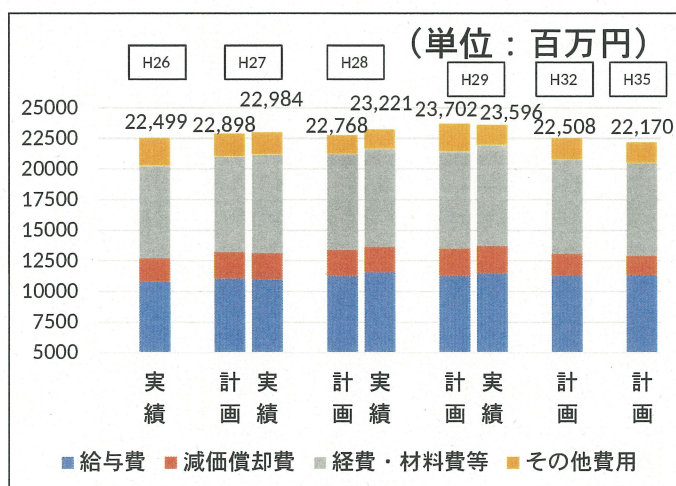


平成29年度の総収益は、前年度と比較して、診療単価の上昇による診療収益の増や、救急医療等の評価による繰入金の増により、計画値を上回っている。

39

(5) 総費用

※実績－計画（単位：百万円）

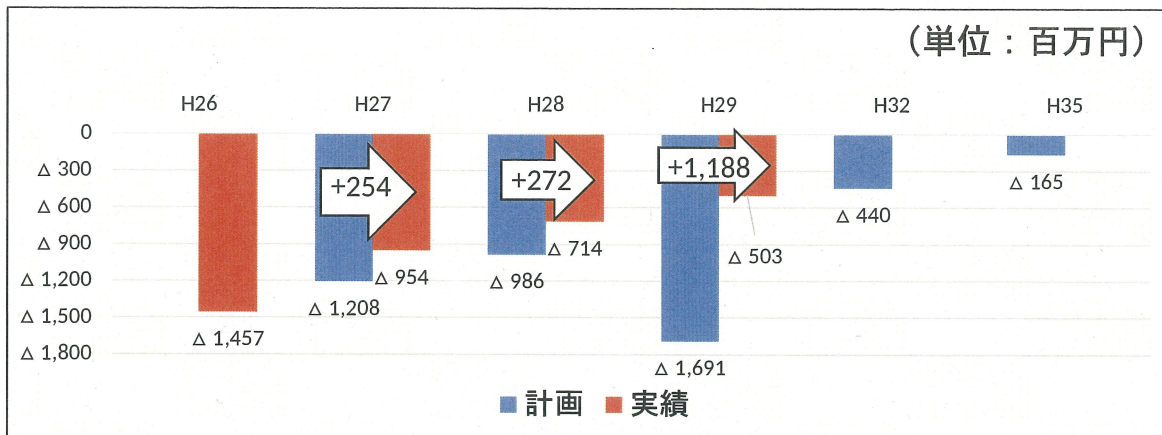


区分	H27	H28	H29
給与費	△ 85	275	205
減価償却費	△ 29	△ 48	19
経費・材料費	252	194	316
その他費用	△ 50	32	△ 646

平成29年度の総費用は、海部病院の移転開院に伴う臨時的経費の発生などにより前年度より増加したものの、ほぼ計画値どおり。

40

(6) 純損益



平成29年度の純損益は、総収益の伸びが総費用の伸びを上回り、前年度より2.1億円の収支改善が図られ、計画値を上回っている。

徳島県病院事業経営計画の取組状況の評価について

資料 2

1 進捗状況

施策数 (再掲を除く)	平成29年度の進捗状況		
	達成 ◎	順調 ○	努力 △
32件	5件 (15.6%)	26件 (81.3%)	1件 (3.1%)

自己評価基準

- ・【達成：◎ (取組目標を達成)】
- ・【順調：○ (平成32年度に取組目標を達成できる状況)】
- ・【努力：△ (平成32年度の目標達成には努力が必要)】

2 「経営基盤の強化策」の自己評価一覧

1 「グループ力の強化」に向けた取組			
(1) 広域的な救急医療支援体制の整備	◎:p. 2	(5) 医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	◎:p. 3
(2) 医師の確保と指導医・専門医の養成	○:p. 2	(6) 危機管理への対応力の強化	○:p. 3
(3) 臨床研修の充実	◎:p. 2	(7) ICT (情報通信技術) の活用	○:p. 4
(4) スペシャリストの養成	○:p. 3	(8) 医療器械等の共同購入の推進	△:p. 4
2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組			
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	○:p. 5	(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	○:p. 6
(2) 地域医療連携の充実	○:p. 5	(6) 精神科医療ニーズの高まりに対する対応	○:p. 7
(3) ホスピタルカーの運行	◎:p. 6	(7) 住民に開かれた病院運営	○:p. 7
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	○:p. 6		
3 「医療の質の向上」に向けた取組			
(1) チーム医療の推進	○:p. 8	(5) 患者・職員の満足度の向上	○:p. 9
(2) 病院機能評価の継続受審	○:p. 8	(6) 患者さんの信頼を得る医療の推進	○:p. 9
(3) 医療安全対策の推進	○:p. 8	(7) 広報活動の充実	○:p. 9
(4) 院内感染対策の推進	○:p. 8	(8) 快適な病院利用環境の整備	○:p. 9
4 「経営の効率化」に向けた取組			
・収入確保の強化			
(1) 急性期医療の重点化	○:p. 10	(4) 未収金の発生防止と回収促進	○:p. 11
(2) DPC分析による経営戦略の策定	○:p. 10	(5) 医師の確保と指導医・専門医の育成 (再掲)	—:p. 2
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	○:p. 11		
・経費削減の強化と効率化の推進			
(1) 後発医薬品の採用	◎:p. 11	(4) 医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化	○:p. 12
(2) 医療器械等の共同購入の推進 (再掲)	—:p. 4	(5) 事務部門のスリム化と強化	○:p. 12
(3) 効率的な委託業務の推進	○:p. 12	(6) 病院資産の有効活用	○:p. 12

各施策の自己評価一覧表

1 「グループ力の強化」に向けた取組

経営計画の概要		計画達成に向けた取組の概要		自己評価										
【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】														
(1)	広域的な救急医療支援体制の整備 ・ドクターヘリ、ホスピタルカーの活用		・ドクターヘリ (H26年度:414件、H29年度:499件、21%増加)、ホスピタルカー (平成29年7月より運行開始し、H29年度:35件、H30年度上半期:27件) の体制整備が整った。	◎ 達成										
(2)	医師の確保と指導医・専門医の養成 ・県立病院間での効果的な人材活用 (医師のローテーション勤務) ・地域枠医師の積極的な受け入れ ・中央診療部門医師 (麻酔科医・放射線科医・病理医) の育成 ・新たな専門医制度への対応	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th><th>計画策定時 (H26年度)</th><th>H28年度 実績値</th><th>H29年度 実績値</th><th>H32年度 目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】</td><td>96名</td><td>97名</td><td>102名 (5名)</td><td>120名</td></tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値	○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	97名	102名 (5名)	120名	・中央病院と三好病院・海部病院間で13診療科、延べ900回の応援診療を実施した。(H29年度) ・臨床研修の質の向上のため、指導医養成講習会に参加し、平成29年度に、新たに8名が臨床研修指導医資格を取得した。(中央病院6名、三好病院2名) ・臨床研修指導医数 (中央病院85名、三好病院13名、海部病院4名) ・「中央診療部門」の医師養成として、平成29年4月から、徳島大学・寄附講座「麻酔科診療部」を新設した。(中央病院・全身麻酔手術 (H29年度) 2,926件)	○ 順調
主要指標	計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値										
○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	97名	102名 (5名)	120名										
(3)	臨床研修の充実 ・特色ある後期研修の実施 ・海部病院の「地域医療研究センター」の整備	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th><th>計画策定時 (H26年度)</th><th>H28年度 実績値</th><th>H29年度 実績値</th><th>H32年度 目標値</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】</td><td>39名</td><td>47名</td><td>55名 (8名)</td><td>55名</td></tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値	○初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	47名	55名 (8名)	55名	・臨床研修病院として、臨床研修医を55名受け入れて、臨床研修の充実を図った。 ・平成30年4月開始の「新専門医制度 (19診療科)」への対応状況 「新専門医プログラム」 中央病院: 17診療科 (基幹施設・連携施設) 三好病院: 13診療科 (連携施設) 海部病院: 5診療科 (基幹施設・連携施設) ・海部病院は、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」の整備を行った。 (徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生が実習を実施。H29年度: 約100名)	◎ 達成
主要指標	計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値										
○初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	39名	47名	55名 (8名)	55名										

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要		自己評価
(4)	スペシャリストの養成				・医師を国際学会に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を修得させた。（H29年度：海外6名） ・専門看護師育成（H29年度：がん看護1名資格取得）、（平成30年度：1名研修） ・認定看護師育成（H29年度：感染管理1名資格取得）、（平成30年度：5名資格取得、8名研修） ・学会、研修会に参加した医療職員や認定看護師等による院内報告会・研修会を通じて、知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。		○ 順調
	主要指標						
	H28年度実績値						
	H29年度実績値						
	H32年度目標値						
○高度医療研修医師派遣者数【県立3病院全体】				9名	15名(6名)	14名	
○専門・認定看護師数【県立3病院全体】				23名	25名(2名)	35名	
○看護学生実習指導者数(看護協会実習指導者講習会修了者数)【中央病院】				24名	25名(1名)	34名	
(5)	医師、看護師等の勤務環境の改善・充実				・県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者（医師事務作業補助者等）51名について、効果的な配置を行った。（中央病院33名、三好病院14名、海部病院4名） ・中央病院の院内保育所（定員80名（内徳大10名））は、原則年中無休で運営しており、病児保育への対応や夜間保育、半日保育、臨時保育も実施している。		◎ 達成
	主要指標						
	H28年度実績値						
	H29年度実績値						
	H32年度目標値						
○医師事務作業補助者数【県立3病院全体】				44名	51名(7名)	50名	
(6)	危機管理への対応力の強化				・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受入訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施し、災害時に備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応できるよう、総合メディカルゾーン基本構想に基づく徳島大学病院と初となる合同実動訓練や市町村、自衛隊等関係機関との連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。 ・DMATとして必要な知識を有する専門職員を養成し、災害拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担えるよう、専門職員の養成に努めた。（中央病院4チーム、三好病院2チーム、海部病院2チーム） ・災害用備蓄食料については、県立3病院による共同購入を実施し、計画的な整備に努めた。		○ 順調
	主要指標						
	H28年度実績値						
	H29年度実績値						
	H32年度目標値						
○DMAT（災害派遣医療チーム）数【県立3病院全体】				8チーム	8チーム	10チーム	

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要		自己評価	
(7)	ICT（情報通信技術）の活用				・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、平成30年度の3病院のシステム統一化に向けて「病院総合情報システム統一化事業」を推進した。 ・海部病院において、山間部等の救急搬送患者の状況を遠隔地医師が迅速に把握可能な「海部病院遠隔診療支援システム（Kサポートシステム）」を運用した。 ・県南部の海部・那賀地域の公立病院が一体となって取り組む「海部・那賀モデル」の一環として、H29年度に海部病院と上那賀・美波・海南の町立3病院を結ぶテレビ会議システムを導入した。 ・遠隔読影については、医師不足による医師の負担軽減と医療の質の向上を目的として、H18年6月1日より、医師により県立3病院間で実施している。 ・今後は、電子カルテシステムの統一化等により、遠隔診療が実施しやすい環境が構築されることから、県立中央病院との間でテレビ電話機能を活用した遠隔医療の実施や、無医地区等に居住する寝たきり老人等に対するタブレット端末等によるテレビ電話機能を活用した遠隔医療の導入を検討している。			○ 順調
	主要指標							
	H32年度 目標値							
(8)	医療器械等の共同購入の推進				・医薬品について、3病院の共同購入によるスケールメリットによる費用の削減を図った。 (H29削減額 薬価ベース 約3億8,500万円) ・医薬品、診療材料の標準化を進めるため、平成29年度には、3病院の物品管理システムの「ネットワーク化」や「マスタ統一」など、統一的な運用を開始した。 ・診療等に影響を及ぼすことがないよう慎重に対応しながら、経費削減に向けた規格統一を図るが、目標値の達成は、厳しい状況である。			△ 努力
	主要指標							
	H29年度 実績値							

2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

経営計画の概要		【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】				計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(1)	高度先進医療・臨床研究の充実					・中央病院においては、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。 【内視鏡下手術支援ロボット：78件、MRI（単純MR：5,622件、造影MR：1,047件）、PET-CT：1,218件、256列CT・単純CT：17,705件、造影CT：5,355件、冠状動脈造影CT：352件、リニアック（放射線治療装置）：2台4,608件（うち高精度放射線治療466件）】 ・三好病院においては、がん治療：手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。 【MRI（単純MR：2,780件、造影MR：192件）、単純CT：9,325件、造影CT：1,002件、リニアック：1,058件】 ・海部病院においては、H29.5.8新病院開院からマルチスライスCT導入。 【単純CT：3,560件、造影CT：264件、MRI（単純MR：1,884件、造影MR：91件）、脳神経外科を中心に活用】	○ 順調
	高度医療機器の整備による先進医療の提供						
(2)	地域医療連携の充実					・連携医として、中央病院522名、三好病院74名、海部病院19名を登録し、地域医療連携を進めた。 ・中央病院の患者支援センターでは、院内外の多職種（医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等）と連携し、入院前から退院まで一貫した患者支援を行っている。地域の医療従事者を対象とした「地域医療支援病院」研修会を開催した。（H29年度18回636人） （紹介患者件数：20,106件）（医療・福祉等の相談業務相談件数：12,970件） ・三好病院では、地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院と3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施し、地域医療支援病院として、地域の医療機関等の連携に努めた。 平成29年度から、新たに、地域の医療機関の職員を対象に、放射線画像の勉強会を行い、関係者のスキルアップに寄与した。また、「地域医療支援病院」研修会を開催した。（H29年度12回504人） （紹介患者件数：3,540件）（医療・福祉等の相談業務相談件数：6,335件） ・海部病院では、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」（164件）や「訪問看護」（780件）などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてきた。病院移転に際して、担当医一覧表を全戸配布した。また、「海部・那賀王デル」を核とした地域の医療従事者向けの研修会を開催した。（H29年度17回657人） （紹介患者件数：1,853件）（医療・福祉等の相談業務相談件数：2,263件）	○ 順調
	地域医療機関との役割分担、連携の推進						
・三好病院、海部病院における訪問診療、訪問看護等、在宅医療の推進							
主要指標		計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値		
○紹介率	【中央病院】	79.8%	82.9%	87.8% (4.9%)	90%		
	【三好病院】	40.4%	51.8%	51.3% (△0.5%)	60%		
	【海部病院】	28.8%	18.9%	16.3% (△2.6%)	40%		
○逆紹介率	【中央病院】	138.8%	171.0%	184.8% (13.8%)	180%		
	【三好病院】	96.6%	85.1%	89.7% (4.6%)	120%		
	【海部病院】	33.1%	40.9%	34.6% (△6.3%)	40%		

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3) ホスピタルカーの運行 ・ホスピタルカーの配置、運用	・中央病院において、ホスピタルカーを、平成29年7月より運行開始し、救命率の向上を図った。(H29年度:35件、H30年度上半期:27件)	◎ 達成
(4) 地域に不足する機能への取組の検討 ・地域医療構想の実現に向けた取り組み	・三好病院は、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論を踏まえ、西部圏域で不足している回復期病床への一部病床の転換について検討している。 ・海部病院は、医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看取りを開始し、今後は、地域ニーズのある「地域包括ケア病床」の導入について検討を行いながら、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、長く過ごしていただけるための取組を進めている。	○ 順調
(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実 ・地域医療機関への情報発信、支援	・県立3病院とともに、県から「へき地医療拠点病院」として指定を受け、へき地診療所や医師の確保が困難な医療機関に対し、医師派遣による診療支援を行った。(H29年度派遣実績、中央病院782回、三好病院56回、海部病院217回、3病院合計1,055回) ・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される感染制御チームが中心となり、地域医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを実施している。また、医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行っている。地域全体での感染対策のボトムアップを図った。	○ 順調

経営計画の概要	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】 精神科医療ニーズの高まりに対する対応 ・せん妄や抑うつ、認知症患者等、精神科医療への対応	・中央病院では、昨年度から多職種（精神科医・精神科認定看護師・臨床心理士・精神保健福祉士）により編成した精神科リエゾンチームが、定期的なカンファレンスや病棟ラウンドを実施し、身体疾患に伴う精神症状の悪化や心理的問題、認知症ケア、せん妄等の患者に介入することにより、よりよい医療の提供とケアの充実に努めた。 ・三好病院では、高齢化に伴う認知症対策として、認知症対策チーム（オレンジチーム）による院内ケアや院内ラウンド等を行い、高齢者や認知症患者に対し適切な医療や看護が提供できるよう取り組みを行った。（週2回 75回 延べ参加数：280人） 平成29年度からは、認知症オレンジカフェを、みよし地域包括支援センターと共同で行い、認知症の方や家族が経験者の話を聞いたり、悩みを打ち明けたりできる機会を設けた。（2回開催 参加者：43名） ・海部病院では、毎週月曜日と木曜日の午後、完全予約制で認知症外来を実施した。	○ 順調
住民に開かれた病院運営 ・地域住民の病院経営への参加機会の設置 ・住民への公開講座、ボランティア参加の推進	・中央病院では、徳島ガン対策センター公開講座「あなたのかえらう」、糖尿病とがんに関する県民公開講座を開催した。オープンホスピタルを開催し、県内高校生が参加した。 ・病院ボランティアによる外来患者に対するホールでの案内や車椅子利用者の介助、生花の飾り付けや植木の手入れ、病院図書室における図書の貸出等を行った。（ボランティア登録者数12名） ・三好病院では、地域住民の代表である「三好病院を応援する会」との意見交換会を開催し、関係者と意見交換を行い、病院運営の参考にした。市民公開講座を開催するとともに、地域の住民を対象とした三好病院出前講座「生き生き講座」を行い、地域に開かれた病院づくりに努めた。 ・地域の中学生を対象にしたオープンホスピタル、小学生・高校生による職場見学、こどもたちの参観日（こどもが親の職場を見学に来る）を開催し、医療現場への興味を深めることに寄与した。 ・病院ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り等を通して、患者が少しでも不安を解消し、安心して治療を受けられる環境を地域住民とともに醸成していくよう努めた。（ボランティア登録：個人17名、団体5団体） ・海部病院では、海部病院経営戦略会議に、地域住民によって設立された団体の代表者等の参加を継続して実施した。 ・海部高校への出前講座、糖尿病教室を開催した。病院敷地内の草抜や剪定など病院ボランティアを受け入れた。（ボランティア登録者数28名）	○ 順調

3 「医療の質の向上」に向けた取組

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】						計画達成に向けた取組の概要	自己評価
チーム医療の推進						・医師をリーダーとして多職種で構成される診療チームとして、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、ICＴ（院内感染制御チーム）、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなど多数のチームが活動しており、良質で安全な医療の提供に取り組んだ。 ・各種チームは、病棟ラウンド・チームカンファレンスのほか、院内・院外に向けた研修会を行うなど、積極的に活動している。 ・チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、アルコールミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。	○
(1)	主要指標 ○薬剤管理指導件数 【中央病院】 【三好病院】 【海部病院】	計画策定時 H26年度	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値		
		11,961件	12,558件	13,765件 (1,207件)	16,000件		
		3,841件	3,358件	3,015件 (△343件)	4,000件		
病院機能評価の継続受審						・3病院ともに、病院機能評価を受審し、認定を受け、認定期間中の確認として報告を行い、更なる改善に取り組み、医療の質の向上に努めた。今後も引き続き、効率的な運営を目指して業務改善等に取り組む。	○ 順調
(2)	・機能評価の受審により、課題の把握と改善への取り組みを推進						
医療安全対策の推進						・県立病院で発生した医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。 ・医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。また、ヒヤリ・ハット報告の重要性を繰り返し伝えた。 ・医療事故想定訓練を開催し、具体的な事例を示しながら、チームワークの重要性と予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。	○ 順調
(3)	・ヒヤリハットの事例収集、分析により、医療安全対策の推進 ・医療安全研修の実施						
院内感染対策の推進						・ICＴ（医師、看護師、検査技師、薬剤師等）では、院内ラウンドやカンファレンスを行い、抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努めた。 ・新型インフルエンザ患者の入院に備え、感染症病床への受け入れ、搬送訓練、PPEの着脱訓練を行い患者発生時の体制設備の確認を行った。	○ 順調
(4)	・院内感染対策チームを中心として研修会や院内ラウンドの実施 ・地域の医療機関や行政機関との連携						

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
患者・職員の満足度の向上 ・総合相談の窓口における患者サポートの充実 (5) 患者満足度調査の現状分析・検証・改善の実施による、患者満足度の向上 ・働きやすい職場環境の整備	・病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～31年度までの新たな計画を策定している。引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めていく。 ・相談窓口は、患者さんからの病氣、受診等に関する相談や質問、専門部署への案内などを行い、患者さんの満足度の向上に努めている。 ・毎年、患者満足度調査を実施し、調査結果については、全職員で情報共有するとともに、職員を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を図った。	○ 順調
患者さんの信頼を得る医療の推進 ・インフォームドコンセントの取り組みを推進 ・セカンドオピニオン相談の周知 ・臨床指標の公表 (6)	・患者の治療に関わる情報を確実に説明し、同意を得る「インフォームドコンセント」について、誠意を持って説明に取り組んでいる。 ・「セカンドオピニオン外来」を開設して、がん又はその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 ・「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や患者さんに病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。	○ 順調
広報活動の充実 ・病院ホームページの充実 ・地域医療機関への情報発信、広報活動の推進 (7)	・病院局、各県立病院のホームページにおいて、診療案内、各種指標等の積極的な情報提供を行い、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の新着情報についても掲載し、患者や医療関係者に情報発信を行った。 ・広報誌、各種パンフレットを発行し、関係機関や来院者に配布し、情報提供を積極的に行った。	○ 順調
快適な病院利用環境の整備 ・メディカルストリートの整備 ・海部病院の移転改築に伴う患者利用環境の改善 (8)	・中央病院のメディカルゾーン構想外構工事について、徳島大学病院との境界部分等を除いて概ね完了した。 ・三好病院の低層棟において、外壁改修工事や屋上防水工事を行い、施設の長寿命化を図り、快適な病院利用環境の整備に努めた。 ・海部病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に併せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始。また、立体駐車場を整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。	○ 順調

4 「経営の効率化」に向けた取組

経営計画の概要【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】						計画達成に向けた取組の概要		自己評価
急性期医療の重点化						・中央病院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。平成29年4月より外傷センターを設け、より専門性の高いプロフェッショナルによる救命向上に努めた。外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間1＋IIの割合が80%以上という目標に対し、平均在院日数の適正な管理に努めた結果、目標を達成することができた。 ・三好病院は、急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を図った。今後、四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の増加に取り組み、収益の増加を図っていく。		
○平均在院日数【中央病院】								
計画策定時 (H26年度)		9.7日	9.9日	9.7日 (△0.2日)	9.6日			
		16.1日	14.2日	14.1日 (△0.1日)	13.5日			
○1日平均新規入院患者数【中央病院】		30.9名	30.5名	30.7名 (0.2名)	33名			
【三好病院】								
8.2名								
8.8名								
9.2名 (0.4名)								
10名								
D P C分析による経営戦略の策定						・D P C対象病院として、診療情報管理、コーディング委員会を開催し、厚労省に提出しているD P Cデータを用い、適宜分析を行うほか、D P C精度向上に取り組んでいる。 ・平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、D P Cデータをを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上を図った。		
D P Cデータを基にした経営分析、他病院のデータとの比較分析								
外部コンサルタントの活用								
(2)						○ 順調		

経営計画の概要		【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】		計画達成に向けた取組の概要		自己評価
(3)	診療報酬制度への戦略的な取組		診療報酬制度改定への迅速・的確な対応 診療報酬査定内容の分析、請求漏れの防止		診療報酬検討会を開催し、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、請求漏れ、誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 平成30年4月の診療報酬改定に向け、情報収集を行い、新たな施設基準の取得など迅速に対応した。	○ 順調
(4)	未収金の発生防止と回収促進		医療費に関する支払相談の充実 未収金回収への積極的な取り組み		医療収益が増加傾向にある中、平成29年度の医療未収金（患者負担分）は、3病院の合計で、2億5,875万8,208円であり、平成28年度から1,135万6,807円減少した。 電話、文書や戸別訪問による督促、一定の要件を満たす場合の法的措置（支払督促）の実施など、これまでの取組みに加え、平成29年6月から回収が困難となっていたものについて、弁護士法人に回収を委託するなど、多様な方策を講じ、未収金の発生防止と回収の促進を図った。	○ 順調
(5)	医師の確保と育成（再掲）		—		—	—
後発医薬品の採用		後発医薬品の採用拡大による患者負担の軽減、費用の削減		患者負担の軽減とともに費用の削減に繋がる後発医薬品の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な拡大に取り組んだ。 後発医薬品数量割合は、平成28年度末において、すべての病院で「80%」を超えており計画目標を達成しているが、引き続き各病院の薬事審議会を通じて採用医薬品について随時、後発医薬品への切り替えを進めていく。		◎ 達成
(1)	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H28年度 実績値	H29年度 実績値	H32年度 目標値	
	○後発医薬品割合 【中央病院】	68.4%	82.6%	84.6% (2%)	70% (H28年度)	
	【三好病院】	63.9%	83.0%	85.1% (2.1%)	80% (H30年度)	
	【海部病院】	82.2%	90.7%	91.2% (0.5%)		
(2)	医療器械等の共同購入の推進（再掲）		—		—	—

	経営計画の概要 【平成29年度実績値の（）書きは、平成28年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3)	効率的な委託業務の推進 ・長期継続契約、一括契約による経費削減	・平成29年度の物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリットを活かし、病院局において、3病院を一括した契約を締結した。(H29削減額 約2,467万円) ・警備、清掃業務で一般競争入札を実施し、長期継続契約を締結した。また、検査・給食・医事などの各委託業務内容の見直しについて検討し、効率化及び経費の節減に努めた。(H29削減額 約1,295万円)	○ 順調
(4)	医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化 ・電子カルテシステムの統一化による費用の低減、 ・総務事務に係る電子決裁化による事務処理の省略化	・平成30年度の3病院のシステム統一化に向けて「病院総合情報システム統一化事業」を推進した。 ・総務事務システムの導入に向けて、関係課と協議検討を行った。	○ 順調
(5)	事務部門のスリム化と強化 ・病院組織の業務、体制の検討 ・専門性の高い職員の採用、育成	・各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当にリーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行った。また、医療情報職を平成29年4月から採用したほか、平成29年度、海部病院の新築移転に伴う業務量増に対応するため、本局職員を海部病院に兼務配置とした。	○ 順調
(6)	病院資産の有効活用 ・医師公舎等の病院資産の有効活用	・平成29年2月に解体した中央病院の医師公舎跡地に、不足する駐車場スペースを新たに整備し、有効活用によるサービスの向上を図った。	○ 順調

各県立病院の取組状況について

- 1 中央病院 ・ ・ ・ p . 2 ～ p . 9
- 2 三好病院 ・ ・ ・ p . 10 ～ p . 16
- 3 海部病院 ・ ・ ・ p . 17 ～ p . 33

2025年～さらなる未来に向けて

県立病院を良くする会

徳島県立中央病院

徳島県立中央病院が目指す方向

